

お住まいの 市区町村から 検査費用の助成が あります!

多くの市区町村では、40歳以上の女性に、2年に1度、検査費用の助成があります。

今年度、助成の対象でない方も、多くは来年度の助成の対象となります。

乳がん検診(マンモグラフィ)は、助成がない場合、1万円程度かかる検査です。
ぜひこの機会に受診してください。

例年、受診期限が近付くと大変混み合います。
お早めにご予約・ご受診ください。

乳がん検診を受けるには

Step 0.

📱 市区町村からの案内や、
市区町村ホームページで確認する

- ・今年度の助成対象かどうか、検査費用
- ・受診できる医療機関、日程、時間 など

Step 1.

☎ 実施医療機関や市区町村に直接予約

受診曜日や時間帯、女性医師による検診の提供など、
詳細は各医療機関にお問い合わせの上、
ご都合にあった医療機関に直接ご予約ください。
(市区町村によっては、予約が不要な場合もあります)

Step 2.

🏥 受診 問診/マンモグラフィ

医療機関で、保険証を提示。受診費用を支払い受診。
自覚症状等についてお聞きします。
乳房のレントゲンを撮ります。

Step 3.

📄 結果を確認する*

検診について詳しくは

お住まいの市区町村のがん検診担当窓口にお問い合わせ
いただくか、市区町村のホームページをご確認ください。

〇〇市 がん検診 🔍 検索

※検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

40歳を過ぎたら 乳がん検診

マンモグラフィなら自己触診では
みつからないがんも見つかる



To:

From:

近年、日本人女性の 9人に1人が乳がんにかかると言われています。^{※1}

もう他人事とは思えない! 乳がんは女性が一生のうちで1番かかりやすいがんです。

乳がんは40~60代女性の がん死亡原因ナンバーワン^{※2}

日本では、年間1万4千人以上の女性が乳がんで亡くなっています。40~60代はとくに乳がんにかかりやすい年齢です。

セルフチェック
だと遅いかも...

誰がなっても
おかしくない
ですよ



自己診断では 見つからないケースがたくさんある

乳がんは自己触診だけでは見つけることが難しく、早期発見のためにはマンモグラフィによる検査を定期的に受けることが大切です。

※1 出典: 国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」2015年全国推計値

※2 出典: 国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」人口動態統計(2018年)

マンモグラフィは こんな検査です。

乳がん検診のマンモグラフィっていったいなにをするのか、不安に思っていないですか。

実際にどんな検査なのかを知っておけば、検診に行く時も安心!

マンモグラフィは、 いわゆるおっぱいの レントゲン

マンモグラフィは乳房X線とも呼ばれる、おっぱいのレントゲンです。プラスチックの板と撮影台に乳房を挟んで上からレントゲンを撮ります。



5秒くらい、じっとして...
撮影終了!

1cm以下のがんも見つけられる 優れた画像検査法

マンモグラフィは、乳がん検診方法として効果があることが確認されている検査法で、早期の乳がんの検出に有用です。

検診で「異常あり」となった場合は
その後必ず精密検査を受けてください。^{※3}

精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。

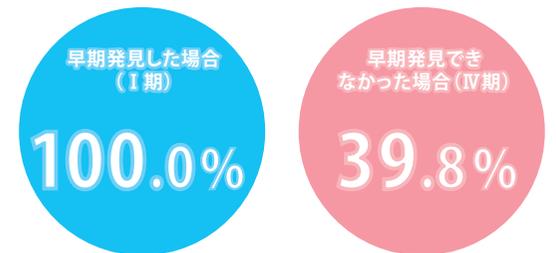
※3 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。

このリーフレットは、がん検診受診率向上<希望の虹プロジェクト>が作成しました。

乳がんは早期発見で 治癒します。^{※4}

乳がんは早期に発見して治療すれば95%以上が治癒します。正しい知識を持って、専門の先生と一緒に定期的にチェックしていくことが大切です。

5年相対生存率



乳がん検診は2年に1度
必ず受診してください

多くのがんは、2年に1度の検診で早期発見できます。ただし、中には急激に大きくなるものもあるため、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液がでる、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに病院へ行きましょう。



※4 ここでいう「治る (= 治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。出典: 全がん協加盟施設における5年生存率 (2010~2012年診断例)